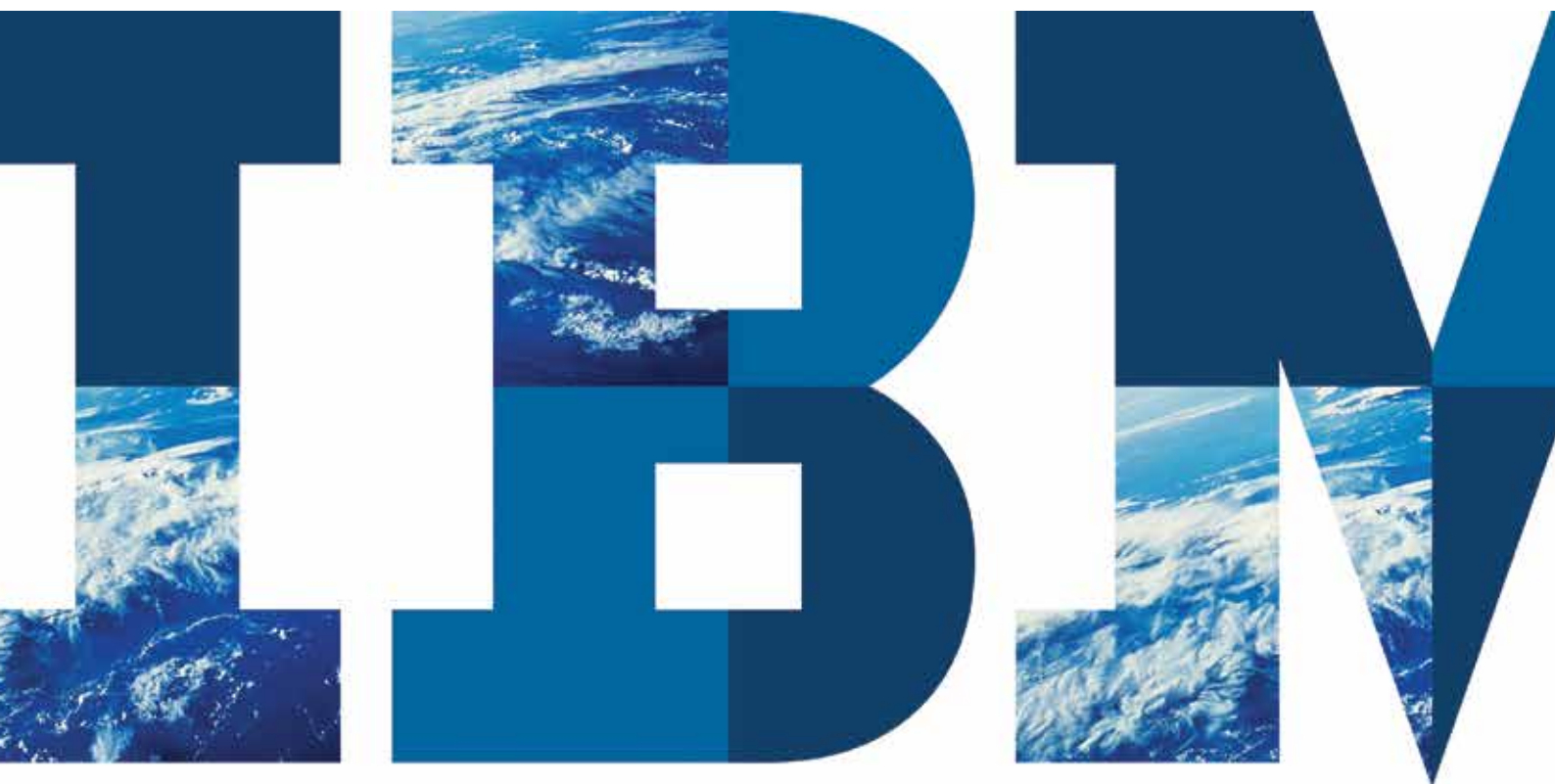


次世代の IT サービス・デリバリーと利用方法を実現する Enterprise IT as a Service

大手企業のIT部門はいかにハイブリッド・クラウドでビジネス価値を最大化し、企業改革を行っているか



目次

- 2 概要
- 3 次世代の IT = ハイブリッド・クラウド
- 4 ハイブリッド・クラウドにおける Enterprise ITaaS の重要性
- 6 ハイブリッド・クラウドを最適化しビジネス価値を最大化する Enterprise ITaaS のユース・ケース
- 9 Enterprise ITaaS モデルへの変革
- 10 企業に破壊的イノベーションを創出
- 11 IBMによるEnterprise ITaaS への変革支援
- 11 まとめ
- 11 詳細情報

概要

デジタル変革とハイブリッド・クラウドの時代において、一気に通貫でパーソナライズされた、いつでも利用可能なサービスへの期待は高まっています。技術の進歩により、ビジネスの境界線は曖昧になりつつあり、業種や地域を超えて競合企業が台頭してきています。常に一歩先を行くには、変化を恐れずに継続的に改革を推進する必要があります。

ビジネス促進のためのテクノロジー・エンジンとして、IT 部門は新たなテクノロジーを活用してイノベーションを推進し、価値創出と成長促進に向けた新しいメカニズムとビジネス・モデルを見出すことで、企業の破壊勢力となる必要があります。実際、IT 部門は、新たな運用モデルに移行することで、破壊的な価値をもたらす大きな機会を得ています。この運用モデルが、Enterprise IT as a Service (ITaaS) です。

ハイブリッド・クラウドは、ここではパブリック・クラウド/プライベート・クラウドに従来型IT を組み合わせたものとして定義しています。ハイブリッド・クラウドは、組織に、次世代のアプリケーション・ワークロードを支えるための柔軟性と、シンプルさ、アジリティ、そして多くの選択肢をもたらします。一方で、IT部門を介さずに増大するクラウド・サービスが大きな課題となっています。多くの場合、ハイブリッドなマルチクラウド環境は、統合、管理およびセキュリティの確保が困難です。その結果、企業のIT部門は、イノベーションではなく、インフラストラクチャーの保守に多くの時間と要員を割かざるを得なくなります。

Enterprise ITaaS は、IT サービスの利用と管理をシンプルにして、ハイブリッド・クラウドの効果を最大にすることで、その方程式を変えます。この新たな運用モデルにより、IT 部門は、ハイブリッド・クラウドの構成要素である異種混在のマルチベンダー・インフラストラクチャーを統合する能力を持つ、信頼のあるブローカー/インテグレーターになることができます。プラットフォームの統合とオーケストレーションにより、可視化とコントロールを最大化しながら、アプリケーション・ワークロードを最適な場所とコストで実行できるようになります。

Enterprise ITaaS は、IT 部門にとって大きな変化をもたらします。ITaaSは、IT 部門が、コスト削減とリスク低減を図りながら、顧客のためにインフラストラクチャーとサービスを最適化し、ビジネスの視点で考え、運用することを可能にします。IT 部門は、ハイブリッド・クラウドを活用することで、高まるデジタルへの要求に応え、ビジネス価値を最大化することができます。

当ホワイト・ペーパーは、Enterprise ITaaS により、IT 部門がいかにハイブリッド・クラウドのビジネス価値を最大化し、破壊的イノベーションの促進剤となるかを検討します。本書は、Enterprise ITaaS のユース・ケースを通じて、運用方法のシフト、IT 部門にとっての機会と開かれる道について、IBM の視点を示しています。

次世代の IT = ハイブリッド・クラウド

ハイブリッド・クラウドは、スタンダードになっています。最近 IBM が行った、IT の意思決定者 500 名を対象としたグローバルな調査では、回答者の 70% がハイブリッドな未来を認識しており、動的かつデジタル化するビジネスの優先順位に応じて、クラウドと従来型の IT 資源を組み合わせ活用していくと確信しています。¹ 彼らは、クラウドのアジリティーに惹かれながらも、基幹システムの設計の多くがクラウドを考慮しておらず、従来型の IT 環境での運用を当面継続せざるを得ないと認識しています。ハイブリッド・クラウド環境は、企業にとってゲーム・チェンジャーとなる可能性があります。ハイブリッド・クラウド環境によって次のことを実現できます。

- 全てのワークロードを最適な場所、最適な価格で実行することで、クラウドと従来型ITへの投資の価値を最大化。
- ユーザー部門が利用可能なプラットフォームの選択肢を最大にし、市場の急速な変化に対応可能なスピードで、アプリケーションを構築・展開。
- データやプラットフォームの所在を意識することなく、シームレスにアプリケーションにアクセス可能。
- 機密性の高い重要なアプリケーションとデータはオンプレミスで管理することにより、潜在的なリスクを軽減。
- 先進的なアナリティクス、自動化、包括的なサービス管理モデルを通じて高品質なサービスを提供。

企業は、優れた可視化とコントロールにより、統合的にハイブリッド環境を管理することができ、メリットを最大化できます。

ハイブリッド・クラウドが、プライベート・バンキングと小切手の支払いという単純な行為にもたらす価値を考えてみましょう。お客様が小切手の撮影に使用するモバイル・アプリは、画像の保管とアーカイブ同様、クラウド上で実行されます。しかし、お客様の口座情報ははじめとする主要な銀行取引の記録は、従来型の IT システム上で更新されます。このクラウドと従来型システムの統合が、ハイブリッド・クラウドが企業にもたらす価値を示しています。

IBM の調査がその価値を裏付けています。優れた可視化とコントロールにより、統合された方法でハイブリッド環境を管理できる企業は、メリットを最大化できます。これらの企業は、ハイブリッドなシステムやワークロードをプロビジョニングおよび構成するにあたり、高度な自動化機能を活用してオーケストレーションを行っていました。その結果、それぞれのジョブに最適な資源を割り当てることが可能になり、求められるスピード、柔軟性、レジリエンシー、セキュリティ、規制要件を満たすことができました。これらの企業は同業者に比べて、ハイブリッド・クラウドを活用して新たなデジタル・サービスを立ち上げ、新たな市場へと拡大する傾向が高く、また、ハイブリッド・クラウドの活用によって、より迅速にイノベーションを推進し、さまざまな端末やプラットフォームでシームレスな顧客体験を提供しています。²

しかし、将来的にハイブリッド・クラウドが重要で有望であると理解していながら、実際には殆どの企業に、統合されたハイブリッド・クラウド管理を行うための能力が備わっていないのが現実です。レガシーからクラウドへ、クラウドからクラウドへのアプリケーション統合を実現し、ハイブリッドを採用した企業は、全てを自社で行ったわけではありません。統合へのハードルを越えるために、外部ベンダーの力を借りているのです。³

ハイブリッド・クラウドにおける Enterprise ITaaS の重要性

ハイブリッド・クラウド環境は、IT 部門による管理・監督の範囲を、複数のプロバイダーから調達されたクラウド・サービスにまで拡張する必要があります。企業内で採用されているクラウド・サービスは、その数が増大するに従って、より複雑なものになります。IT 環境の断片化に加え、部門・部署単位で独自にシステム調達を行うシャドー IT が増えると、IT 部門はシステムやプロセスを管理しきれなくなります。米国のコンサルティング会社である Saugatuck は、通常このようなクラウド・ソリューションのうち、IT 部門で把握しているものはわずか 10 ~ 20 パーセントに過ぎないと推定しています。⁴ 増大し続けるクラウド・サービスによって可視化とガバナンスが欠如することで、IT 部門に期待されているシームレスなサービス提供を行うことはますます困難になっています。さらに、種々異なるインフラストラクチャーは、管理コストがかさみ、企業にとって大きなリスクとなります。

企業がこのような状況に置かれるのも、IT が一般化され、ビジネスがデジタル化してきていることに起因します。ユーザー部門はますますグローバル化し、モバイルとソーシャルを使いこなしています。彼らはセルフ・サービスでプロビジョニング/選択することに慣れており、社内の IT 部門にそれ以上のサービスを求めています。ユーザー部門は、コストの最適化と効率化だけでなく、スピードとイノベーションを通じて価値をもたらすことを IT 部門に期待しているのです。インフラストラクチャーとアプリケーションがサービスとして提供され、オンデマンドで利用でき、パーソナライズされていることが期待されています。IT 部門がこうした期待に応えられない場合、ユーザー部門は IT 部門を介さずに外部プロバイダーを選択するようになり、その結果 IT 部門は更なるリスクを背負うことになります。

IT リーダーは、IT 部門がパブリック・クラウドのアジリティ、スピード、利便性と競合していることに気付いています。これらのパブリック・クラウドの特性を、すべての IT サービスにおいて実現することは重要ですが、ユーザー部門の期待に応えるには十分ではありません。IT 部門は、ビジネス部門に寄り添い、テクノロジーに限らずに、ビジネス戦略とイノベーションを推進するパートナーシップを構築する必要があります。

新たな IT の運用モデル

Enterprise ITaaS は、IT 部門がよりビジネス中心の組織にシフトすることを促進します。これは、現在ユーザー部門が外部から調達しているサービスに取ってかわる運用モデルです。IT 部門は従来型 IT と他社のクラウド・サービスを社内で最適な形で共存させることができ、ユーザー部門は IT サービスを必要な分だけ利用し、支払うことができます。IT 部門は、より顧客中心のアプローチを行い、ユーザー部門がセルフ・サービスでサービス・カタログにアクセスできるようにし、高度な自動化機能を活用して、クラウド上もしくはオンプレミスでサービスの購入と請求を行います。

この新たな思考によって、IT 部門はサービス・プロバイダーからサービス・インテグレーターへと変革します。この中で IT 部門は、収益向上のためのビジネス・ニーズを事前に把握し、社内外の IT サービスを集約して、ユーザー部門のビジネス実現のために競い合わせます。これにより IT 部門はクラウド・プロバイダーとの効率化を図り、ユーザー部門は十分な情報と選択肢に基づいた意思決定を行うことができます。IT 部門にとって、サービスのブローカーになることよりも重要なのは、これらのサービスのサプライ・チェーンに付加価値を与えることです。IT 部門がクラウドと従来型システムを統合することは、モバイルでの小切手取引同様、企業のビジネス・モデルの変革に不可欠です。このようにして、IT 部門はサービスをサポートするだけでなく、サービスの利用を積極的に推進しています。

Enterprise ITaaS は、企業および IT 部門全体で、様々な角度から変革していくことでこれらを実現しています。これにより、サービスの提供方法、利用方法、管理方法が変わると同時に、組織、財務、テクノロジーの面でも抜本的な変化が必要となります (図 1)。

Enterprise ITaaS は、マルチクラウドなハイブリッド基盤の計画、選択、運用、管理を最適化します。Enterprise ITaaS は、ハイブリッド環境のプロビジョニングをセルフ・サービスで俊敏に行い、利用状況の監視を可能にするフレームワーク、プロセス、ソフトウェア・ツールを提供し、各ワークロードを最適な場所とコストで実行することを可能にします。Software-Defined テクノロジーは、

クラウドと従来型 IT からなる複雑なエコシステムのオーケストレーションを、企業ファイアウォールの両側で可能にします。オープンな設計にすることで、ベンダーを固定することなく、インフラストラクチャー、アプリケーション、管理システムの統合を促進することができます。Enterprise ITaaS によって IT サービス管理を統合することで、サービスを一元的に管理し、マルチクラウドなハイブリッド環境全体の幅広いコントロールを促進します。これが、多様な IT 環境でシームレスかつコスト効果の高いコントロールを実現する鍵となります。高度な自動化機能とコグニティブ・アナリティクスによって、膨大な量の情報を検出・

総合することで、ハイブリッド環境の健全性とコンプライアンスを維持します。これによりサービス品質とスピードを向上し、生産性を高め、継続的に最適化を図ることができます。

ユーザー部門はより良い顧客体験を経験できます。IT 部門は、インフラストラクチャーの設計、調達、実装、運用に費やす時間を減らし、よりイノベーションに注力できるようになります。より統合・統一されたリアルタイム・アプローチを用いてサービスの運用・管理を行うことは、IT 部門がビジネス上のステークホルダーとの関係を維持するために重要となります。

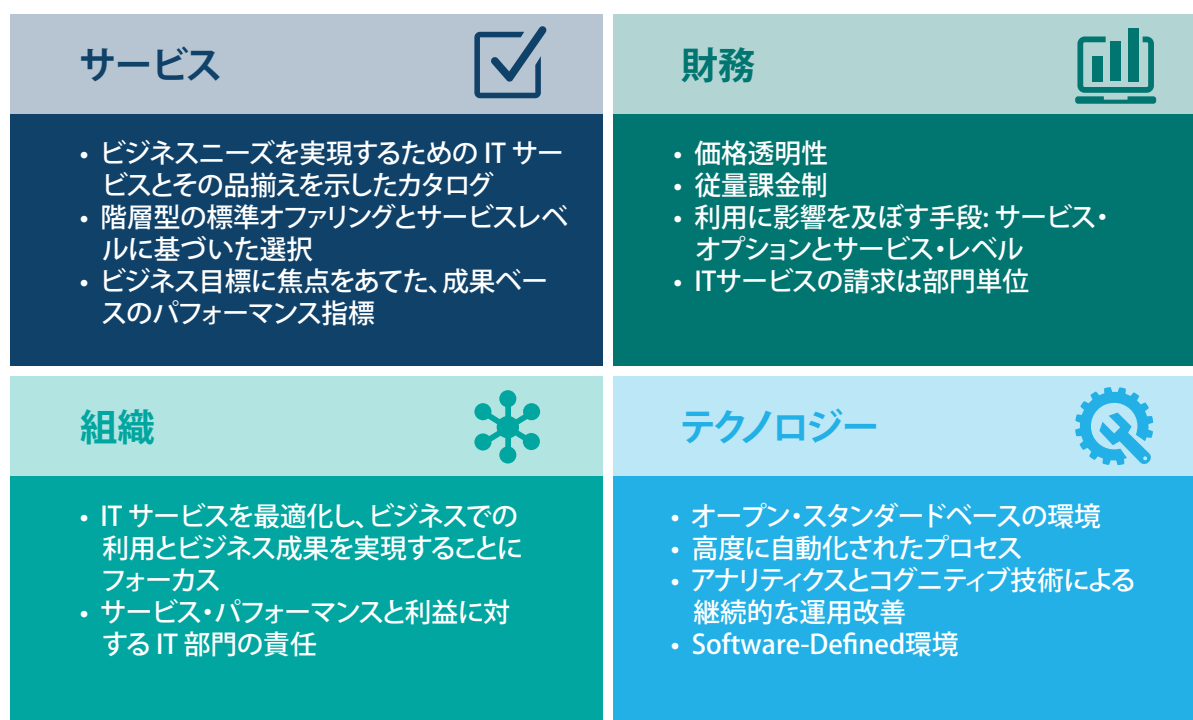


図 1: Enterprise ITaaS の 4 つの側面。Enterprise ITaaS は、IT 部門にとって業務を変更することであり、ビジネス・フォーカスを策定することであり、複数の側面が幅広く変化することです。IT サービスの利用と管理を簡素化し、ハイブリッド・クラウドの価値を最大化することが可能になります。

ハイブリッド・クラウドを最適化しビジネス価値を最大化する Enterprise ITaaS のユース・ケース

Enterprise ITaaS を導入することは、テクノロジーのメリットを取り込むということではありません。ビジネスの実現に向けて、どのようにテクノロジーを活用できるかを捉える、ということです。ハイブリッド・クラウドを最適化することで、Enterprise ITaaS は、IT 部門がビジネスに圧倒的な価値をもたらすことを可能にします。

- IT コストの低減と透明性向上
- IT サービスのプロビジョニング、ガバナンス、管理方法の合理化
- 企業の IT インフラストラクチャーの可視化とコントロールの向上
- 企業のデジタルへの要求を満たすスピードとスケーラビリティの提供
- 戦略的イノベーションと破壊的価値を創造する機会の増加

Enterprise ITaaS モデルを導入し、ハイブリッド・クラウドとビジネス価値を最大化するユース・ケースは複数あります。このセクションでは、一般的な 4 つのユース・ケースの概要を説明します。これらは、IBM の考える市場やお客様のニーズのパターンに基づいています。

- アプリケーションの移行とモダナイゼーション
- アプリケーション・イノベーション
- 可視化とガバナンス
- 統合と最適化

アプリケーションの移行とモダナイゼーション

デジタル・エコノミーで成功を収めるには、変化する需要に動的に対応し、予期せぬ増加にも対応できる必要があります。これは、企業のアプリケーションの大半が従来型の IT インフラストラクチャーで実行されている場合は困難です。クラウドは、レガシーの IT では実現できない一定レベルのアジリティと弾力性を提供することで、これを解決します。なお、ほとんどのアプリケーションは、ハイブリッド環境で効果的に機能するように最新化してから、クラウドへ移行する必要があります。

Enterprise ITaaS は、アプリケーションをクラウドへ移行し、クラウドの資源を最も効率的に活用するためのフレームワークを提供します。これにより、IT 部門はワークロードをクラウド間で動的に移行したり、ピーク時の要求に応えるためにクラウドへと解放する能力を備えた、アジリティのあるハイブリッド・クラウド環境を構築できるようになります。

IT 部門は運用面、財務面で、どのアプリケーションのワークロードがクラウドに最適かを判断する必要があります。また、既存の IT インフラストラクチャーへの投資をよく調べた上で、クラウドの動的な環境のメリットを享受できるワークロードはどれかを判断するのです。ワークロードを最適に組み合わせるためのプラットフォームを導入するには、クラウドと従来型 IT を比較し、ワークロードのクラウドへの移行計画を開発することが求められます。

これらの計画が実行されれば、Enterprise ITaaS による IT サービスのオーケストレーションによって資源と需要が動的にマッチングされ、コストとポリシーに基づいてワークロードが適切なプラットフォームに移行されます。アナリティクスが需要予測とソーシングの意思決定を支援します。

お客様事例: ハイブリッド・クラウドへの跳躍

ある大手電機メーカーは、オンプレミスのインフラストラクチャーでは、信頼性・即応性の観点でグローバル化に十分対応できないため、IT インフラの大部分をクラウドへと移行させることが解決策になると認識していました。現在、大規模なクラウド上で100近いウェブサイトが稼働しており、22言語に対応しています。そして数千に及ぶ製品情報が絶えず更新されています。これはSoftware-Defined環境上に構築されており、十分な柔軟性、拡張性、回復力を提供します。クラウドへの移行により、IT部門はユーザー部門に対するサービスの提供方法と価格設定を改善することができ、革新的なソリューションを多様な市場に迅速に提供できるようになりました。これは、IT部門が従来型のITプロバイダーからビジネス価値を提供するパートナーに変革する重要な第一歩となりました。

アプリケーション・イノベーション

企業インフラストラクチャーの大半がクラウド・ベースの場合、イノベーションが迅速かつ容易に実現されることが期待されます。しかし、常にそうであるとは限りません。クラウドにアクセスできるだけで、開発者がより最適かつ迅速に、新たなビジネス・サービスを構築・提供できるわけではありません。

IT部門は、開発部門とユーザー部門が、次世代のDevOps環境で、新しいアプリケーションを迅速に構築、テスト、展開できるように支援する必要があります。Enterprise ITaaSは、時間のかかるIT調達プロセスを、迅速なセルフ・プロビジョニングに置き換えることで、これを実現します。開発者は、全てのハイブリッド環境から、インフラストラクチャーやサービスを迅速かつ容易にプロビジョニングできます。セルフ・サービス式のカタログを使用することで、これまで数週間かかっていた開発環境の構築を数時間で行うことができます。さらに、プロセスが自動化されているので、管理、ガバナンス、請求機能を備えた新たなアプリ

ケーションを容易に稼働させることができます。アプリケーションおよび基礎となるデータは、既存の企業システムと安全に統合され、動的なガバナンスによって稼働されます。

企業ポータルからアクセスできるセルフ・サービス式のカタログは、モジュール型サービスとサービス・オプションのメニューを提供し、従来型IT、パブリック・クラウド、プライベート・クラウドから最適なサービスを選択できます。これらのサービスは、簡素化および標準化されており、ユーザーの役割に応じてカスタマイズできます。これにより、IT部門はよりガバナンスをきかせながらパーソナライズされた顧客体験を提供することができます。カタログ上でサービスの概要、階層、価格を確認できるので、ユーザー部門は、どのサービスを利用し、どの位の費用と効果が見込まれるか、十分な情報に基づいて意思決定を行うことができます。アナリティクスを活用して、クラウド・プロバイダーの価格、サービスや機能の違いをわかりやすく一覧表示することで、その意思決定を支援します。

Enterprise ITaaSによって、開発者が開発プラットフォームにアクセスしやすくなるだけでなく、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) エコノミーをさらに活用できるようになります。カタログにより、IT部門が承認・公開した幅広いAPIに容易にアクセスできるようになり、APIを活用した新たなサービスの迅速な開発が可能となります。これにより、社内のユーザー部門と社外のビジネス・パートナーによる、企業にとっての新たな収入源の創出が促進されます。

可視化とガバナンス

ハイブリッド・インフラストラクチャーの可視化とガバナンスを高めるために、Enterprise ITaaSに移行するIT部門も多くいます。Enterprise ITaaSによって透明性が高まり、ベンダー固有のプロセスやツールが集約・統合され、パブリック、プライベート、従来型ITの資源を一元的に監視・管理できます。さらに、アナリティクスを活用して継続的にサービス品質とキャパシティをリアルタイムで最適化できます。

外部でプロビジョニングされたクラウド・サービスを表示できるので、IT部門を介さずに部門で調達したITサービスを把握することができます。Enterprise ITaaS は、このように管理できていなかったクラウド・アセットを自動的に特定し、その他の IT資産 と合わせて管理下に置くことができます。IT リーダーは、クラウドの利用状況から、コストの傾向、セキュリティまでを同一のコンソールで確認し、監視することができます。そしてサービスがいつ、どこに導入され、どのように使用されているかを見ることができます。これにより、問題をより迅速に解決し、サービス・レベルをより良く準拠できるようになります。ユーザー部門にもメリットがあります。ユーザー部門は、引き続き既存の外部のクラウド・サービスを使用しながら、購入やコンプライアンス、プロセスが集中管理されます。

サービスの利用や調達から、ガバナンス、請求まで、Enterprise ITaaS は ITの バリュー・チェーン全体で管理を簡素化する包括的なフレームワークを提供します。これにより、ビジネス/運用/セキュリティに関するポリシーとコントロールを自動化することで、動的なガバナンスが促進されます。これには、DevOps に求められるコントロールも含まれます。クラウド・ベースのプラットフォームには、新しいアプリケーションを稼働させるために必要なコントロールが欠けていることも多いのですが、Enterprise ITaaS で、セキュリティ、バックアップ、災害対策、ネットワーク、ロード・バランシング・サービスなどの管理層を新しいアプリケーションに適用 (ラッピング) し、サービス・マネジメントという形でこれらのコントロールを提供します。

コストと請求の透明性も保つことができます。Enterprise ITaaS は、費用がかさんだり新規開発の停滞につながりかねないコストの非効率性を顕在化します。Enterprise ITaaS で、ユーザー部門は IT サービスのプロビジョニングを行う前にコストを把握し、コストと実際の利用量を比較することができます。IT 部門は、チャージバック機能で、請求を統合し、部門単位で正確に請求することができます。それぞれの部門が適切なサービスを選択できるようにし、サービスの利用方法をきちんと管理し、利用状況に応じてサービス内容を変更することで、不要なコストを抑えます。

透明性によって信頼が築かれ、リスクを低減するので、サービス・レベルが満たされていることを確認したり、ビジネス目標と一致していることを確認しやすくなります。ユーザー部門にとっては、外部プロバイダーを利用するのではなく、IT 部門を通してサービスを利用することの価値を理解しやすくなります。

統合と最適化

増大し続けるクラウド・サービスに悩まされている企業は、急速に変化するビジネス要件とデジタル要求に対応しながら、拡張する IT サービスのエコシステムを抑制し、統合したいと考えています。Enterprise ITaaS は、ハイブリッド・クラウド環境を統合し継続的に最適化して、新たなワークロードの要求に対応するので非常に効果的です。

サービスを統合することで、既存のシステムとプロセスをセルフ・サービス式のカatalogに組み込むことができます。これにより、コスト最適化を図りながら、異種混在環境を管理し、クラウドと従来型の IT資源が集約されたプールを最大限活用できます。資源は、特定のアプリケーション専用にするのではなく、共有できます。クラウドのプロビジョニングと管理を自動化することで、運用コストが低減されます。あるオーストラリアの金融機関では、これらのハイブリッド・クラウド戦略を活用することで、運用コストを 60 パーセント削減しました。

Enterprise ITaaS は、ハイブリッド・クラウド環境を統合し最適化するためのプラットフォームを提供します。これにより、IT 部門はクラウド・サービス調達の管理体制を整えることができます。IT 部門は、Catalogを通じてユーザー部門をセキュリティや規制基準に準拠するサービスに誘導することができます。Enterprise ITaaS は、サービスのデリバリーと利用の動的なオーケストレーションを行うために必要なツールとプロセスを統合します。例えば、コンピュー、ストレージ、ネットワーク・サービスのソーシング、構成、保護など、新たな開発環境のプロビジョニングに関与するあらゆるタスクやサービスのオーケストレーションを行います。

オーケストレーションは、IT サービスを自動的に接続することから、サービス統合の鍵となる要素です。オーケストレーションが行われる環境を構築するには、インフラストラクチャーの構成要素とサービスを標準化して合理化し、その後サポートするプロセス、組織、テクノロジーを再構築する必要があります。これには、サービスに API のラッパーを提供し、テクノロジーのリファレンス・アーキテクチャーと標準化されたワークフローを開発し、サーバー、ストレージ、ネットワークのための Software-Defined テクノロジーを実装し、新たな手法について IT スタッフをトレーニングすることが含まれます。また、自動化機能を組み込み、サービスのオーケストレーション、管理、ガバナンスを促進することも求められます。

お客様事例: 総所有コストを低減しながらアジリティーを向上

ある米国の住宅金融専門会社は、新たなサービスやプロジェクトを実現するためのアジリティーやスピードが欠如している原因は、既存のインフラストラクチャーにあることを認識していました。同社のインフラストラクチャーは、異種混在環境でしたが、標準化も自動化もされておらず、運用が複雑化しコストがかさんでいました。この問題を解決するために、同社はサーバーとストレージをクラウド・ベースの ITaaS モデルへと移行しました。これにより運用が簡素化されただけでなく、5 年間で 20 パーセントの節減 (7500 万米ドル) を達成しました。この新しいモデルをサポートするために、テクノロジー標準、導入パターン、統合サービス・カタログが確立されました。現在同社は、ワークロードのオーケストレーション、利用ベースの価格設定、予測分析を継続的に行うことで最適化を実現しています。

Enterprise ITaaS モデルへの変革

これらの4つのユース・ケースは Enterprise ITaaS への効果的な出発点を示していますが、始める方法は他にも色々あります。その多くが、既存の資源とインフラストラクチャーを活用して、企業の迅速かつ段階的な発展を可能にします。多くの場合、これらの発展は、従来型のサービス・プロビジョニングに比べて迅速に設計・導入できる、革新的な新しいビジネス・ソリューションとなります。

Enterprise ITaaS フレームワーク (図 2) には、この新たなモデルへの運用面、組織面での変革に必要な主な要素がまとめられています。ビジネス・ソリューションは、DevOps などの新たな開発に役立つ Enterprise ITaaS のアジリティーと効率性によって生じます。ブローカー機能は、あらゆるクラウドと従来型の IT サービスの選択、調達、利用を集約し、シンプルにします。サービスは、標準化、モジュール化、マルチクラウド化されており、ビジネス・ニーズに応じて設定され、オーケストレーションされています。従来型の IT サービスと、パブリックおよびプライベート・クラウドのオーケストレーションによって、ユーザー部門がサービス・デリバリーと利用を簡単にできるようになり、最適な方法でサービス要求が対応されるようになります。

Enterprise ITaaS フレームワークには、セルフ・サービス式のカタログの作成と管理も含まれます。IT 部門は、継続的に新しいカタログ・オファリングを評価し、さまざまな強みとコスト構造を持つプロバイダーを採用し、選択されたサービスのベンチマーク・テストを行い、ビジネスに最適な選択肢を提供することが求められます。どのクラウド・サービスを利用可能かを定義し、予め定義されたテンプレートをベンダーごとに構築することで、IT 部門は新しいサービスが企業のセキュリティとレジリエンスに関する仕様を満たしていることを保証できます。これにより、ユーザー部門は完全に法令を遵守したクラウド・ソリューションを利用できます。さらに、利用状況とサービス・レベルの選択によって支出を自己管理できます。

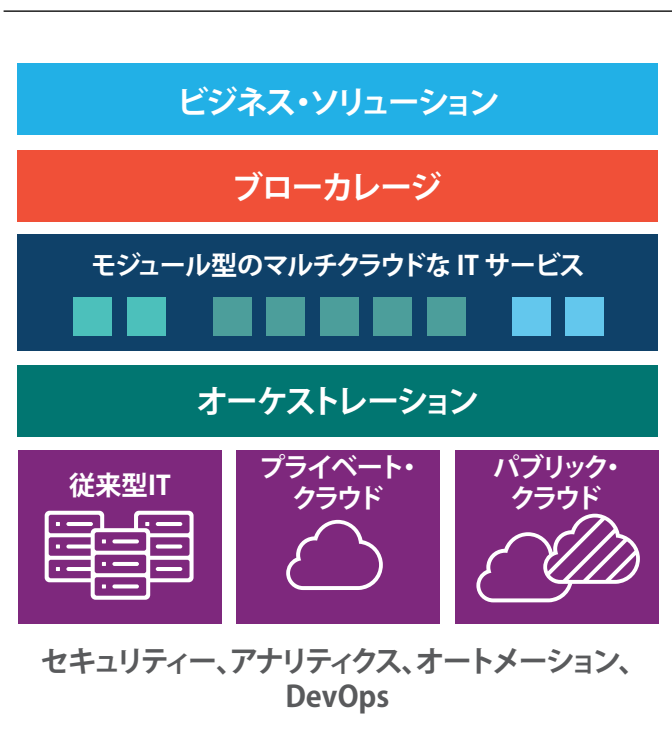


図 2: Enterprise IT as a Service のフレームワーク。Enterprise ITaaS のフレームワークは、ITの運用と企業の変革に必要不可欠な要素の全体像を提供します。

Enterprise ITaaS への変革は、ITの成熟度診断を行い、企業のハイブリッド・クラウド環境の現状とゴールを設定することから始まります。既存のインフラストラクチャーと資源を評価して、IT サービスをどのように ITaaS モデルへと移行するかを決定します。ビジネスの促進要因が定義されると、その定義に基づいて適切な移行戦略が定義されます。さらに、Enterprise ITaaS に特有の継続的なサービス・デリバリーと機能横断的なコラボレーションを実現するには、それに対処できるネットワークが必要となります。

また、Enterprise ITaaS を実現し、統合されたハイブリッド・クラウドのエコシステムを構築するために、必要なサービスとポリシーの定義、ワークフローのオーケストレーション、ガバナンス・プロセスの構築も必要となります。セルフサービス、従量課金、Enterprise ITaaS プラットフォームの法令遵守に必要な自動化を実現するために、テクノロジーとプロセスを標準化する必要があります。Software-Defined環境は、標準化に不可欠な基盤を提供します。これにより、資源の調達先がクラウドか従来型ITかに関わらず、サービスのプロビジョニングと管理が自動化され、動的なオーケストレーションが可能になります。

最後に、Enterprise ITaaS の実現には、運用の変革と同じくIT部門の組織的な変革も重要となります。企業全体でアジリティーを高めるには、IT部門がビジネスの視点で運用し、ビジネスで利用するために IT サービスを最適化することが非常に重要です。このようなアジリティーにより、企業はハイブリッド・クラウドのビジネス価値を最大化することが可能になります。

企業に破壊的イノベーションを創出

ハイブリッド・クラウドに関する IT の機会と課題は、これまでになく高まっています。競合他社に先駆けて、変革を起こす新しいクラウド機能を構築するには、IT の専門家を活用して現状の課題に挑戦し、ビジネス価値を創出する新たな方法を見出すことが必要となります。Enterprise ITaaS を活用し、ビジネス中心のセルフサービス・モデルを活用できるようになることが、ビジネス価値を創出するために必要な要素の大きな部分を占めています。

Enterprise ITaaS では、インフラストラクチャーだけではなく、IT 部門の変革の重要性も強調しています。これにより、コラボレーションを阻む縦割りの組織と運用上の壁をなくし、IT 部門がビジネス部門の戦略的パートナーとして位置付けられるようになります。IT 部門は、新しいアプリケーションをより迅速に開発し、収益を向上させて競争差別化を図ります。

IT リーダーは、自由にイノベーションを起こし、自らの組織に、企業の破壊的な推進力となる力をつける必要があります。IBM のグローバル経営層スタディーにおけるインタビューでは、CIO はこの点を認識しており、これは IT 部門だけが担うことのできる役割であると認識しています。これには、迅速に試行し、市場に最初に投入するための企業文化を築くことが求められます。また、IT 部門の分析能力を、関連するスキルと専門知識で強化することも必要になります。将来に備えて人材を採用し、外部組織と協力することで、人材のギャップを埋めることができ、IT 部門は新たなテクノロジーやビジネスの要求に対応できるようになります。⁵

Enterprise ITaaS への道では、運用の変革と同じくらい、IT 部門の組織的な変革が重要です。ビジネスの視点で実行し、ビジネスで利用するために IT サービスを最適化する IT 部門の能力は、企業全体でアジリティーを高めるために非常に重要です。

IBMによるEnterprise ITaaS への変革支援

Enterprise ITaaS は、IT 部門にとって急激な変化を意味します。つまり、既存の IT プロセスとテクノロジーを変更し、IT 技術者に今までとは異なる考え方と運用方法を受け入れてもらうことが求められます。

IBM は、この変革を自社でやり遂げた経験があります。IBM の Enterprise ITaaS は、IBM がシステム・インテグレーターからサービス・インテグレーターへと変革したアプローチに基づいています。

IBM は、クラウドおよび従来型インフラストラクチャーの統合とサポートを含む企業の視点を備えた、体系化されたベスト・プラクティスに基づく IT as a Service フレームワークを持っています。IBM は、40 パーセントのコスト節減を実現し、サイクルタイムを短縮するための専門知識、プラットフォーム、フレームワークを有しています。IBM は、ソリューションのデリバリーを 9 カ月から 1 カ月未満に短縮することができます。さらに、その業界の代表的なお客様の、ハイブリッド・クラウドによるイノベーションとビジネス価値の実現を支援しています。IBM は、銀行業におけるカード取引の 60 パーセント、ハイパーマーケットの小売販売の 47 パーセント、世界中のモバイル接続の 53 パーセント、乗用車の生産の 61 パーセントを支えるインフラストラクチャーを管理しています。

まとめ

多くの企業がハイブリッド・クラウドを目指すなかで、IT 部門の役割は進化を求められており、進化する必要があります。IT 部門が引き続きビジネスに価値を提供し成長を可能にするためには、ビジネスの視点で実行する必要があります。Enterprise ITaaS は、このミッションを達成するために必要不可欠です。Enterprise ITaaS は、クラウド・モデルのセルフサービス、選択肢、そして透明性を合わせ、ハイブリッド環境の統合とオーケストレーションを行うための包括的なサービス管理フレームワークを提供することで、IT 部門がクラウドをはじめとする IT サービスのプロバイダーになることを支援します。これにより、IT サービスの調達、ガバナンス、管理方法が簡素化され、IT 部門はハイブリッド・クラウドの複雑性を低減し、ビジネス価値を最大化できるようになります。それにより IT 部門は、競争優位性を獲得するために重要となる破壊的イノベーションを起こすことに、より集中できるようになります。

詳細情報

IBM は、IT 部門が Enterprise ITaaS へと移行し、企業に破壊的イノベーションを起こすことをご支援します。詳しくは、次の Web サイトをご覧ください。ibm.biz/itaas_jp

謝辞

Alexander J. Schmid

エグゼクティブ・コンサルタント、プリンシパル
グローバル・テクノロジー・サービス、エンタープライズ IT トランスフォーメーション・アドバイザー

Mickey Iqbal

IBM フェロー兼マスター・インベンター
グローバル・テクノロジー・サービス、テクノロジー、イノベーション・アンド・オートメーション

Prakash Somani

ディレクター、ハイブリッド・エンタープライズ IT オファリング
グローバル・テクノロジー・サービス、システムズ・アンド・サービス

Jean-Claude Dispensa

技術理事、エンタープライズ IT トランスフォーメーション
グローバル・テクノロジー・サービス、テクノロジー、イノベーション・アンド・オートメーション

Donna Bowie-Conway

グローバル・コンテンツ・マーケティング・マネージャー
グローバル・テクノロジー・サービス



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホームページは以下をご覧ください
ibm.com

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、次の Web サイトをご覧ください。ibm.com/legal/copytrade.shtml

本資料は最初の発行日の時点で得られるものであり、随時、IBM によって変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において提供されているわけではありません。

記載されているお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

^{1,2} IBM、[「Growing up hybrid: Accelerating digital transformation」](#)
2016 年 2 月。

³ TBR、「Cloud Business Quarterly, Semiannual Report: Hybrid Cloud Customer Research, 2H15」2016 年 1 月 28 日。

⁴ Saugatuck、[「Security Exposures of Shadow IT」](#) 2015 年 5 月。

⁵ IBM、[「知のネットワーク創造: グローバル経営層スタディからの洞察 - CIOの視点」](#) 2016 年 1 月。

© Copyright IBM Corporation 2017



Please Recycle